

と恩人誠身との少細を鞠向厚く扶助せ加へらるゝ例股の株へ招客  
是も同様に竹中小あづけて軍法を学ぶをさう。重治之回と舊属。  
志士と深切小教授一けふゞのうちも心中種々て。番量も昔小丸み  
らを。先日越前敵船の時も遠候の三回今外小捲よこしも重治  
より士を教める。妙を得てしもへさん。本願母と者ありて。あと  
小勤めを充服を。加藤虎之助清正福島市松正則行相助他因元と等ら  
せう。遙者年々が初されど。やむして力もとどまらず武術小學<sup>を</sup>  
べ。長浜城の巡檢使を。虎氏の苦渋と物らを。非常の事と割せられ

繪本豊臣勲功記二編卷之六終